



受験生の皆さん

学長 竹葉 剛

大学受験勉強というのは、一般的に言って、楽しいものではない。自分が知りたいことを知ることは本来楽しいことだが、受験勉強では、知りたくもないことを無理に記憶させられることの苦痛がある。また、人はそれぞれ違うのに、試験の点数だけで序列化され、競争にかりたてられるのも、おもしろくない。しかも、受験勉強で得た知識の多くは短期間で忘れられるともいう。

そのような「無駄な勉強」を大学はなぜ受験生に課すのか。それは、「一見すると無駄」とみえる受験勉強の中で鍛えられる能力があり、その能力が、人間としてさらに高い能力を身につける上で、必要と考えるからである。

受験勉強の中で鍛えられる能力とはどのような能力なのだろうか。一つは、「読み書きそろばん」とも言われる基礎学力である。日本語

はだれでも使えると思うかもしれないが、文庫本を一冊読んで内容を把握する際に、素早くできる人と長く時間のかかる人がいる。また、何かの報告書を書くとき、論理的に簡潔に書ける人とそうでない人がいる。「読み書き」の能力は、小説や新聞など、たくさんの文章を読んで初めて身につく基礎的な能力である。「そろばん」は物事の量的な関係を把握する能力である。いずれも社会人となったとき必要となる基礎的な能力でもある。

もう一つは、知識を自分で活用する能力である。何かの問題に出会ったとき、必要な知識を動員して問題解決に当たるわけだが、暗記だけで詰め込んだ知識は、多くの場合活用できない。高校で学ぶ内容は、いつでも自分で活用できるように頭の中に整理しておくことが大切である。

本学は、本をたくさん読み、自分で知識を活用できる人、すなわち自分で考えられる人を求めている。



目次

学長挨拶	1	生物・化学	14
入試特集		物理・数学	15
本号の構成と利用ガイド	2	研究室の紹介	16
学部長からのメッセージ	3	在学生の声	18
入試日程	4	クラブ・サークル紹介	19
学部学科別入試概要		就職活動支援	20
文学部	5	卒業生の声	21
公共政策学部	7	ニューフェイス	21
生命環境学部	8	新歓夜祭開催	23
平成21年度入試結果	11	在学生の活躍～平成20年度学長表彰者～	23
入試科目別アドバイス		教員奮闘記	24
英語・国語	12	トピックス	24
日本史・世界史	13		

入試特集

京都府立大学広報委員会

平成20年度から京都府立大学は京都府公立学校法人京都府立大学となりました。学部学科も改編され、文学部・公共政策学部・生命環境学部の3学部体制で新たなスタートを切りました。今年度はその改編2年目にあたります。

この冊子は、主として京都府立大学を受験しようと考えている受験生の皆様に読んで頂くことを念頭に置いて編集されています。受験生の皆様にとって必要な情報を、できるだけ簡潔・的確で、かつ親しみやすい形で提供できるように、全学部学科の関係教員がアイデアを絞り、手作りで作成しました。入試に直接関わる情報に始まり、研究室の紹介、在学生からのメッセージ、キャンパスライフ、卒業生の声など、多彩な内容になっています。ぜひ最後の頁まで読んでみて下さい。少しでも皆様のお役に立てれば幸いです。

本号の構成と利用ガイド

本号は入試に関する部分とそれ以外の関連記事の2つの部分から構成されています。ただし科目別記事は予想問題ではありませんので、あくまでも参考資料としてご利用下さい。

■入試関係の情報■

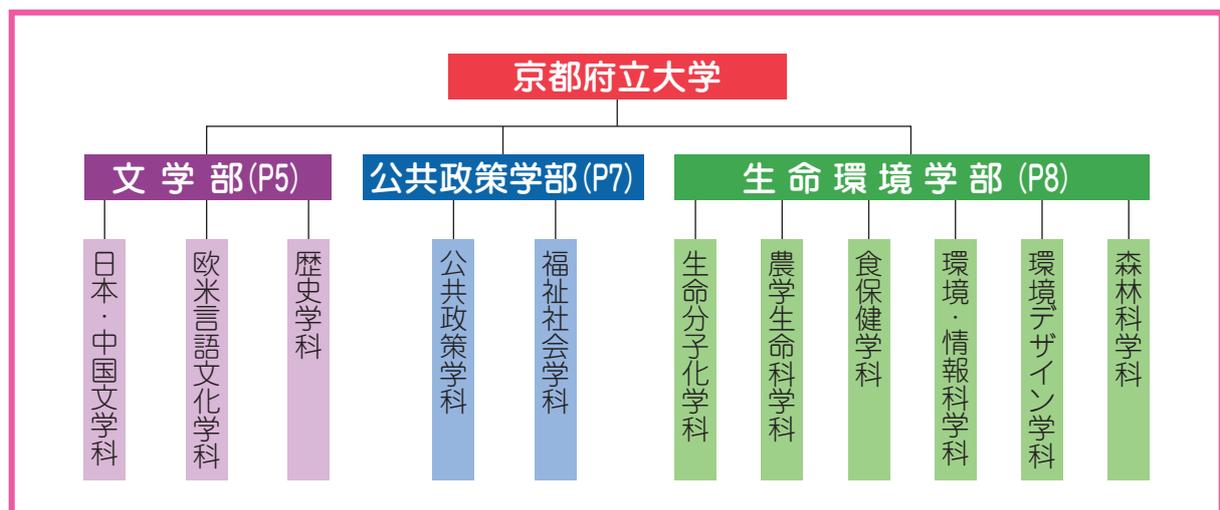
入試情報は学部学科ごとに表にまとめられています。一般入試（前期・後期）に関しては、センター試験と二次試験それぞれの試験科目と配点が示されています。学科によって配点が異なる場合がありますので、ご注意ください。また推薦入試やAO入試についても、それぞれの概要が示されています。ただしAO入試については、実施する学科と実施しない学科とがありますので、自分の志望する学科の頁をよくご覧下さい。

■大学生生活■

入学後の大学生活についてご案内する部分です。まず、大学にはどんな研究室があり、そこでは一体どんな研究を行っているのか、学部ごとにその一端を紹介しています。また在学生からは、これから入学してくる後輩へのメッセージやアドバイスが寄せられています。その他、クラブ・サークル活動の紹介、就職活動支援や就職状況、卒業生の声、在学生の活躍ぶり、等が紹介されています。京都府立大学でのキャンパスライフに、一足先に触れてみてはいかがでしょうか。

なお、入試に関する詳細は、必ず「選抜要項」で確認するようにしてください。

★各学部・学科の詳細は下記の該当ページへ



学部長からのメッセージ

文学部長 上田 純一

文学部の三学科（日本・中国文学科、欧米言語文化学科、歴史学科）についてご紹介いたします。

まず、日本・中国文学科では、日本語学・日本文学・中国文学について学ぶことができますが、その際どれか一つに限定するのではなく、三分野全てについて本格的な知識が身につくようにカリキュラムが組まれています。また京都文化学の授業では、京都の伝統文化と文学の関係について幅広く学ぶことができますし、さらにネイティブによる中国語会話の授業なども設けられています。

欧米言語文化学科では、イギリス・アメリカ・ドイツ言語文化や英語学、日英翻訳文化などを中心に学ぶことができます。また、フランス言語文化の講義などもあります。授業では、言語・文学・マスメディア・映画などの言語テキストを題材として欧米文化理解を深める一方、京都という地の利を活かして日本文化との比較研究なども行います。さらに、ネイティブによる英語・ドイツ語の実習などもあり、さまざまな分野の授業によって視野を広げた上で、卒業論文作成時に各自が専攻分野を決めることができます。

最後に、歴史学科では、歴史的遺産に恵まれた京都の地域性を活かした授業が行われています。すなわち、古代から近現代に至る日本史・日本文化史を中心に、中国をはじめとする東洋史・東洋文化史、ヨーロッパを主とした西洋史・西洋文化史、歴史遺産の研究・保存・活用などを旨とする文化遺産学の4コースから構成されています。ただし、これらのコースは学習のためのまとまりですので、最初はコースに分けずに広く歴史と文化を学び、その後、各自の専攻分野を決めることとなります。

これら三学科の授業は少人数のものが中心であり、学生一人一人の個性まで把握した丁寧な指導が行われています。

「立派な農民は、収穫と同じく耕作と種まきを愛する」という格言があります。来るべき収穫の時をめざして、共に頑張りましょう。



学部長からのメッセージ

公共政策学部長 小沢 修司

私たちの学部は「福祉社会をめざし公共政策を拓く」という理念を掲げていますが、この理念は、100年に一度と言われる世界同時不況や金融危機が進行し、雇用や暮らしが破壊され、先行き不透明な社会システムの中で閉塞感が広がる今日にあって、ますます真価が求められてきていると実感しています。人々の幸せ・福祉を実現する社会を、従来の「常識」や「通念」にとらわれず、「新しい公共」のあり方を探りいろいろな人々との協働の取り組みとして実現していくこと、これが私たちの学部が目指すものです。

公共政策学部は、社会科学系と福祉系・人間系の2つの学科から構成されています。

公共政策学科は、住み良い地域や社会を作ろうという国や地方の公務員、NPO・NGO、社会貢献を行う民間企業で働く人材、より高い政策立案能力や問題発見・解決能力を持った人材を養成します。未来志向型の「公共政策」を切りひらきます。

福祉社会学科は、福祉や医療の現場で働くソーシャルワーカー、家庭裁判所調査官・法務教官などの国家公務員や民間の福祉・生涯学習・教育・相談援助の仕事に就く人材など地域における人間形成の担い手を養成します。

いずれの学科でも、1回生から4回生に至るまで演習科目を配置し、対話・討論する力などいろいろな人々との協働を創り上げる力を身につけます。また、それぞれの学科での特徴ある学び以外にも、学科の枠を超えてより柔軟に幅広く問題意識に添った学びができる工夫（副専攻制度）も準備しています。

公務員試験や社会福祉士の合格率で他大学に優れる実績を誇っている本学部ですが、少人数教育の強み、定評ある教員の面倒見の良さをいっそう発揮し、チャレンジ精神旺盛な諸君を応援します。





生命環境学部長 久保 康之

生命環境学部は、2008年に既存の人間環境学部と農学部を統合して設置された新しい学部です。近年の科学の発展や社会情勢の変化に伴い、両学部の対象とする学問分野の関連性が一層強くなってきました。新学部は時代にふさわしい先進的な教育体制を備えています。

学部名の「生命」と「環境」という言葉は地球と人間の活動を包括した領域を意味しています。私たちはこの生命と環境という言葉を概念的に捉えるのではなく、私たちを取り巻く現実の課題として受け止め、そこから出発し、ひとびとの生活や社会に即した教育と研究を大事にしたいと考えています。人類の生活や生存を脅かす諸問題やひとびとの関心のある課題をいくつか拾ってみますと地球温暖化、エコライフ、自然災害、ナノテクノロジー、バイオエネルギー、遺伝子組換え、食の安心・安全、食と健康、食料自給、動物の感染症、情報技術、地域社会の発展などがあります。いずれも生命環境学部の教育・研究課題として扱う領域です。こうした課題は複雑で学問分野間の連携が必要とされます。そこに新学部の意義を見いだすことができます。

生命環境学部は生命分子化学、農学生命科学、食保健学、環境・情報科学、環境デザイン学、森林科学の6学科で構成され、生命現象の解明と応用、食と健康、食料の持続的生産、安全性や食育について学べます。また、健康的・文化的な生活を支える住まいと建築、都市と地域、さらに森林から地球環境について学び、情報化してよりよい環境を作るための知識と技術を習得します。

生命環境学部は優れたカリキュラムを提供するとともに、教員には学生とともに課題を共有し、ともに成長していこうとする意欲と情熱が漲っています。そして、教育の目標として掲げた「世界に通用する専門能力と技術力」「課題を見いだす洞察力と課題解決の筋道を見いだす能力」「広い視野と柔軟な思考力」をもつ学生の育成にむけ不断の努力を重ねてまいりたいと思います。



● 入学試験日程 ●

● 出願資格・選抜方法等詳細は学務課入試担当 (Tel 075-703-5144) へお問い合わせください。

一般選抜

- | | | |
|---|--------------------|----------------------------|
| 1 | 出願期間 (第2次試験願書受付期間) | 平成22年 1月25日 (月) ~ 2月3日 (水) |
| 2 | 第2次試験の実施日 | 前期日程試験 平成22年 2月25日 (木) |
| | | 後期日程試験 平成22年 3月12日 (金) |
| 3 | 合格発表日 | 前期日程試験 平成22年 3月5日 (金) |
| | | 後期日程試験 平成22年 3月23日 (火) |

特別選抜 (推薦入学)

- | | | |
|---|--------|------------------------------|
| 1 | 願書受付期間 | 平成21年 11月2日 (月) ~ 11月10日 (火) |
| 2 | 試験実施日 | 平成21年 11月28日 (土) |
| 3 | 合格発表日 | 平成21年 12月11日 (金) |

特別選抜 (AO入試)

- | | | |
|---|--------|-----------------------------------|
| 1 | 願書受付期間 | 平成21年 9月15日 (火) ~ 9月25日 (金) |
| 2 | 試験実施日 | 平成21年 11月28日 (土) (文学部欧米言語文化学科を除く) |
| | | 平成21年 11月29日 (日) (文学部欧米言語文化学科のみ) |
| 3 | 合格発表日 | 平成21年 12月11日 (金) |

■文学部■

教育理念・目標

文学部は、人間の文化的・社会的営為に関する人類の叡智を継承し、ことばと文学、歴史と文化遺産にかかわる専門領域を深く教育・研究するとともに、現代社会・地域社会が提起する諸課題にこたえるために、知の拠点として、つねに新たな教育・研究領域を開拓することを目指しています。またそのたえざる探求と教育とをつうじて、幅広い教養を備えるとともに、豊かな人間性と高度な専門性、および総合的な視野を養うことにより、地域文化・地域課題をにない、また国際化社会にも貢献しうる有為な人材を育成することを目指しています。



日本・中国文学科

定員	一般入試		推薦入試
	前期 20人	後期 4人	6人（府内枠）
求める学生像	①言語や文学に対して強い関心と幅広い視野を持つ人 ②人間や社会に対しても幅広く目を向けている人 ③自ら問題を発見し、解決しようとする力を備えている人 ④文献の読解に取り組む粘り強さと、多角的な視点からものごとを見る柔軟さを備えた人		
合否判定	センター試験(500点)と2次試験(700点:国語300点、歴史200点、外国語200点)との総合点による判定	センター試験(500点)と2次試験(国語300点)の総合点による判定	推薦書、調査書、国語及び英語の試験成績による総合判定
判定の特徴	日本・中国文学科で扱う文献を理解し、研究を遂行するための基礎学力となる読解力・記憶力・語学力と、思考力・日本語の運用能力を中心に判定している。		

平成21年度一般選抜試験合格者成績（1）

文学部

学 科	日 程	合格者数 (人)	合 計 点 (点)			
			最 高 点	最 低 点	平 均 点	配 点
日本・中国文学科	前期	26	886.2	753.0	797.5	1200
	後期	4	634.4	611.0	620.7	800
欧米言語文化学科	前期	26	828.8	690.8	758.7	1200
	後期	4	516.1	457.3	493.6	650
歴史学科	前期	33	1007.6	861.5	917.2	1300
	後期	8	702.8	637.8	660.1	800

公共政策学部はP15、生命環境学部はP13に掲載しています。

欧米言語文化学科

	一般入試		推薦入試	AO入試
定員	前期 18人	後期 4人	6人(府内枠)	2人(*府内枠)
求める学生像	①過去から現代に至る欧米の文化と日本文化に強い関心を持ち、日本語と外国語の優れた言語能力を備えた人 ②言語文化研究に適した、人間と社会に対する深い関心と多角的な視野を持つ人 ③外国語・日本語を問わず、言葉の仕組み、機能に関心のある人 ④言葉の力や人類が培ってきた様々な思想を理解するための共感能力、柔軟な思考力と問題把握能力を持つ人 ⑤言葉や文化について自ら見出した問題を論理的に考え、表現する能力を備えた人			
合否判定	センター試験(500点)と2次試験(700点:国語200点、歴史200点、英語300点)の総合点による判定	センター試験(350点)と2次試験(英語300点)の総合点による判定	推薦書、調査書、英語および国語の試験成績による総合判定	自己推薦書、調査書、小論文および面接による総合判定。小論文は英語の文章を読んで日本語で答える問題
判定の特徴	以下の諸点を判定する。 ・日本語と外国語の言語能力 ・人間と社会に対する理解 ・柔軟な思考力と問題把握能力	以下の諸点を判定する。 ・日本語と英語の言語能力、特に英語の能力を重視する ・人間と社会に対する理解 ・柔軟な思考力と問題把握能力	以下の諸点を判定する。 ・入学意欲と適性 ・日本語と英語の言語能力 ・人間と社会に対する理解 ・柔軟な思考力と問題把握能力	調査書と自己推薦書によって入学意欲と適性を判定。さらに小論文と面接によって、以下の諸点を判定する。 ・日本語と英語の言語能力 ・人間と社会に対する関心と視野の広さ ・様々な思想を理解するための共感能力 ・柔軟な思考力と問題把握能力 ・論理的に考え、表現する能力

注) *AO入試の府内枠については、府内高校出身でなくてもよい。また、「現役生」でなくてもよい。

歴史学科

	一般入試		推薦入試	AO入試
定員	前期 25人	後期 7人	6人(府内枠)	2人(府内枠)
求める学生像	①歴史に対して強い関心を持ち、人類のさまざまな社会的・文化的活動に広く関心を持つ人 ②歴史の研究の基礎となる史料や文献の読解に根気強く取り組める人 ③自ら見いだした課題を論理的に把握・整理し、自分の考えを的確に表現できる人 ④人類の様々な文化遺産に対して広く関心をもち、その保存と活用を通して社会に貢献したい人			
合否判定	センター試験(600点)と2次試験(700点:外国語200点、国語200点、歴史300点)の総合点による判定	センター試験(600点)と2次試験(歴史200点)の総合点による判定	推薦書、調査書、英語および小論文の試験成績による総合判定	自己推薦書、調査書、レポート、面接および英語の試験成績による総合判定
判定の特徴	センター試験、2次試験などにより、学科の求める基礎学力を判定します。史料や文献の読解に必要な能力について外国語・国語の試験を中心に、また歴史に関する基礎知識と課題発見・表現の力について歴史の試験を中心に判定します。		推薦書・調査書により、歴史や文化遺産への関心・意欲・適性などをみます。英語・小論文の試験により、史料や文献の読解に必要な能力、歴史に関する課題発見・表現の力を判定します。	自己推薦書、調査書、レポート、面接により、歴史や文化遺産への関心・意欲・適性、課題発見・表現の力を総合的に判定します。英語の試験により史料や文献の読解に必要な能力および歴史への関心を判定します。

公共政策学部

教育理念・目標

公共政策学部は、社会科学系の公共政策学科と福祉・人間系の福祉社会学科の2つの学科から構成されています。生涯にわたる人間発達を多様に実現する社会（福祉社会）を、個人、NPO、地域コミュニティ、企業、行政などが協働して築くために、より高い政策立案能力や問題発見・解決能力を持った人材、地域における福祉や地域力の担い手を養成していきます。



公共政策学科

	一般入試		推薦入試
定員	前期 30人	後期 8人	10人(府内枠) 2人(全国枠)
求める学生像	①社会の発展と現代社会の制度・政策的課題の解明に強い関心を持つ人 ②人間の発達と政策形成の課題の解明に強い関心を持つ人 ③よりよい地域社会を築くために積極的に貢献したいと考える人		
合否判定	センター試験(600点)と2次試験(400点=外国語200+国語200)の総合点による判定	センター試験(600点)と2次試験(400点=小論文400)の総合点による判定	推薦書、調査書及び小論文の試験成績による総合判定
判定の特徴	高等学校での基礎的諸教科(国語、数学、外国語、地理歴史、公民、理科)をバランスよく学習し、十分な学力を有していることを評価する。	左記の基礎的諸教科についての十分な学力に加えて、読解力・文章表現力・論理的思考力・要約力などを小論文を通じて評価する。	高等学校での学習の成果や活動の状況に加えて、読解力・文章表現力・論理的思考力・要約力などを小論文を通じて評価する。

福祉社会学科

	一般入試		推薦入試
定員	前期 30人	後期 8人	10人(府内枠) 2人(全国枠)
求める学生像	①人間の福祉と社会連帯のあり方に実践的な関心を持つ人 ②人間の発達と行動、教育と社会形成の課題の解明に強い関心を持つ人 ③地域と社会の現実的問題の解決に実践的に取り組んでいきたいと考える人		
合否判定	センター試験(600点)と2次試験(400点=外国語200+国語200)の総合点による判定	センター試験(600点)と2次試験(400点=小論文400)の総合点による判定	推薦書、調査書及び小論文の試験成績による総合判定
判定の特徴	高等学校での基礎的諸教科(国語、数学、外国語、地理歴史、公民、理科)をバランスよく学習し、十分な学力を有していることを評価する。	左記の基礎的諸教科についての十分な学力に加えて、読解力・文章表現力・論理的思考力・要約力などを小論文を通じて評価する。	高等学校での学習の成果や活動の状況に加えて、読解力・文章表現力・論理的思考力・要約力などを小論文を通じて評価する。

■生命環境学部■

教育理念・目標

生命環境学部は、「生命」と「環境」を共通のテーマとして、安全な農作物の生産、食環境の向上、生命分子機能の応用、人間生活と住環境および自然環境と情報環境の向上、森林との共生に第一線でたずさわることのできる人材の育成を目標にしています。そのため、「世界に通用する専門能力と技術力」ならびに「課題を見いだす洞察力と課題解決の筋道を見いだす能力」を養うとともに、「広い視野と柔軟な思考力」を培う教育を心がけています。

生命分子化学科

	一般入試		推薦入試
定員	前期 20人	後期 5人	6人(府内枠3人、全国枠3人)
求める学生像	①化学をはじめとする理科に強い興味があり、論理的で、自主性と創造性に富んだ、人間性豊かな人 ②生命、環境、食糧などに関わる科学領域に好奇心が旺盛で、将来、新規な生命分子の構造や機能の解明に関わる基礎研究や、有用な生命化学物質の開発・応用・生産をめざす分野で活躍を希望する人 ③入学後も一層の勉学意欲と向上心を持ち続け、厳しい学力評価に耐えうる心構えのある人		
合否判定	センター試験(900点:国語200、社会100、数学200、理科200、外国語200)と2次試験(800点:数学200、理科400、外国語200)の得点による総合判定	センター試験(1000点:国語200、数学300、理科300、外国語200)	推薦書、調査書、志望理由書、面接及び総合問題の試験成績による総合判定
判定の特徴	本学科における学習や研究を遂行するための基礎学力を判定する。		生命分子化学科では、「化学」に重点をおいて幅広い生命科学の教育を行う。そのため、「成績優秀な者で、化学Ⅰと化学Ⅱを履修している者」を推薦の条件としている。総合問題は、高等学校の英語、理科、数学について理解力、思考力を見る。

農学生命科学科

	一般入試		推薦入試
定員	前期 28人	後期 6人	14人(*府内枠7人、*全国枠7人)
求める学生像	「豊かな環境共生社会の創造」を教育研究の指針とする農学生命科学科では、①生物および自然に関心を持ち、自然環境を活かした食料生産と生物機能の開発について基本的な知識と技術の習得に熱意をもつ人、②農業並びにその関連産業の発展に広い視野からアプローチするための好奇心と意欲をもつ人、そして、③大学院等へ進学し専門性を高め、それを活かして地域への貢献や国際的な活躍を志向する人を求めます。		
合否判定	センター試験(900点)と2次試験(500点:理科300、外国語200)の総合点による判定	センター試験(600点:数学200、理科200、外国語200)の総合点による判定	推薦書、調査書、志望理由書、面接及び総合問題(高等学校の英語、理科、数学についての理解力、思考力を見る)の試験成績による総合判定
判定の特徴	農学生命科学科では自然科学を基礎として教育を行うために、特に理科を高く配点して判定している。		基本的思考力とともに、将来的に農業及びその関連産業への進路を考えた強い意志と情熱をもつ人を総合して判定する。

注) *特別枠各1を含む。農業・食品分野の専門教育に関する高等学校(学科)卒業見込の者であって、専門分野をさらに発展させたいというチャレンジ精神を持つものを対象。詳細は学務課入試担当までお問い合わせください。(電話:075-703-5144)



食保健学科

	一般入試	推薦入試	AO入試
定員	前期 18人	5人（府内枠）	2人（府内枠）
求める学生像	①「食」に深い関心をもち、その課題発見と解決に寄与する意欲のある人 ②「食」を通じて、日本と世界の人々の健康の保持・増進に貢献できる人 ③「食」を多面的・総合的に把握しようとする人		
合否判定	センター試験（900点）と2次試験（600点：理科400、外国語200）の総合点による判定	推薦書・調査書・面接および小論文の試験成績による総合判定	自己推薦書・調査書・面接および小論文の試験成績による総合判定
判定の特徴	食保健学科は理系の学科であり、かつ管理栄養士養成を行っている。 従って、学科で提供している様々な理系の教科や研究遂行のための基礎学力を判定している。	管理栄養士は、人を対象とした仕事である。 ここでは、「食」に関する小論文を課し、論文を読み解く力と、受験者の「食」に関する問題意識をみている。 また面接により、勉学意欲と管理栄養士としての適正を判断している。	自己推薦書により、受験者の当学科への入学意欲と「食」に対する熱き思いをみている。 「食」に関する小論文を課し、論文を読み解く力と、受験者の「食」に関する問題意識をみている。 また面接により、勉学意欲と管理栄養士としての適正を判断している。

環境・情報科学科

	一般入試	推薦入試
定員	前期 20人	5人（府内枠）
求める学生像	理工系分野で世界で通用する専門家となるためには、まず好奇心と論理的思考力と表現力が必要である。各理系科目を暗記ではなく理解して、自分の言葉でその内容を語る能力があるかを重要視する。柔軟な発想のもとに思考する創造性豊かな人や社会に役立つ物質の創成、新しい技術の開発に夢をもっている人を、ポテンシャルが高い人と考えている。そして、先端科学技術を人々の生活の向上に生かそうという気概をもつ人を求めている。	
合否判定	センター試験（600点）と2次試験（800点：数学400、理科400）の総合点による判定	推薦書・調査書・面接および小論文の試験成績による総合判定
判定の特徴	数学と理科の理解力に判定の重点をおいている。このため、数学と理科のみで行う2次試験の配点を高くし、かつ、総合点に占める数学と理科の合計点の割合を71%としている。なお、総合点に占める英語、数学、理科の合計点の割合が86%と高いのも特徴である。	面接および小論文では、主に論理的思考力と表現力を試験している。好奇心および創造性についても、判定材料に含められるよう小論文の問題および面接時の質問内容を工夫している。将来のビジョンが明確であるか、意欲的な態度であるかも判定で考慮している。調査書も判定に含めている。推薦書については、面接の際に参照する形で間接的に判定において考慮している。



環境デザイン学科

	一般入試		推薦入試
定員	前期 25人	後期 5人	10人(府内枠)
求める学生像	①住まい・都市・地域、生活用品のデザインについて、生活者の立場に立って科学的に追究する意欲のある人 ②住居学・建築学ならびに、ランドスケープ、プロダクト、アパレル等に関心のある人 ③自然に関心があり、人類と自然の共生について興味のある人 ④物事を科学的に分析する能力を持ち、事柄を総合化して設計し表現することに意欲的に取り組める人 ⑤大学生としての自覚を持ち、主体的に学び、研究する意欲にあふれた人 ⑥京都府の自然・歴史・文化に興味のある人		
合否判定	センター試験(600点)と2次試験(200点:理科100、外国語100)の総合点による判定	センター試験(600点)と2次試験(200点:美術(実技))の総合点による判定	推薦書・調査書・志望理由書・面接および小論文の試験成績による総合判定
判定の特徴	入学後の教養・専門科目の習得に必要な基礎的学力の判定を行う。 2次試験における英語は理系・文系に共通する基礎科目として、理科は、専門教育における自然科学系科目における基盤的な素養として設定している。	センター試験により、基礎的な学力を判定する。 2次試験では、デッサン力や絵画力などの美術的素養よりも、本学科の専門性に関連して必要となる基本的な空間の把握力、構成力、表現力の評価を行う。	志望理由書により、意欲や抱負、特記すべき点などを重視し、評価する。 小論文では、論理的思考能力、文章による表現能力、文章の書き方に関する能力をみる。 また面接により、専門に関する興味や学習意欲等について調べる。

森林科学科

	一般入試		推薦入試
定員	前期 20人	後期 6人	9人(*府内枠6人・全国枠3人)
求める学生像	①自然や科学に対する興味と探究心を持ち、森林に関する課題を積極的に学ぼうとする人 ②そのために必要な基礎学力と知識を持つだけでなく、論理的な思考ができ、さらには広く社会の状況を把握できる人 ③学んだ知識を生かし、森林が関係するさまざまな分野において、産業の発展、地域貢献、さらに国際的な視野に立った活躍を目指す人		
合否判定	センター試験(900点)と2次試験(500点:理科300、外国語200)の得点による総合判定	センター試験(900点:国語200、地歴・公民100、数学200、理科200、外国語200)	推薦書、調査書、志望理由書、面接及び総合問題(高等学校の英語、理科、数学について理解力、思考力を見る)の試験成績による総合判定
判定の特徴	高等学校での基礎的教科についての幅広い学力と、自然科学の理解を深め、研究を行うために必要な理系科目及び外国語の学力を重視した判定をする。		自然科学を学ぶために必要な基礎学力、論理的な思考力、自然、森林に対する興味と探究心ならびに社会状況を把握する力を判定する。

注) *は特別枠1を含む。森林・環境分野の専門教育に関する高等学校(学科)卒業見込の者であって、専門分野をさらに発展させたいというチャレンジ精神を持つものを対象。詳細は学務課入試担当までお問い合わせください。

(電話: 075-703-5144)

平成21年度入学者の状況（学部）

学部	学 科	日程	募集人員 人	志願者数 人	受験者数 人	合格者数 人	入学者数 人	競 争 率 倍
文 学 部	日本・中国文学科	前期	20	124	104	26	22	4.0
		後期	4	82	46	4	3	11.5
		推薦	6	20	20	6	6	3.3
	欧米言語文化学科	前期	18	83	73	26	21	2.8
		後期	4	81	42	4	2	10.5
		推薦	6	40	40	7	7	5.7
		A O	2	15	15	4	3	3.8
	歴 史 学 科	前期	25	152	138	33	31	4.2
		後期	7	106	52	8	6	6.5
		推薦	6	17	17	6	6	2.8
		A O	2	2	2	2	2	1.0
	公 共 政 策 学 部	公 共 政 策 学 科	前期	30	67	64	36	26
後期			8	87	38	18	13	2.1
推薦			10	31	31	10	10	3.1
A O			2	6	5	2	2	2.5
福 祉 社 会 学 科		前期	30	82	78	35	33	2.2
		後期	8	85	48	10	10	4.8
		推薦	10	26	26	10	10	2.6
		A O	2	13	8	3	3	2.7
生 命 環 境 学 部	生命分子化学科	前期	20	76	72	26	23	2.8
		後期	5	19	19	9	4	2.1
		推薦	6	26	26	8	8	3.3
	農学生命科学科	前期	28	83	81	32	31	2.5
		後期	6	43	43	6	4	7.2
		推薦	14	47	47	17	17	2.8
	食 保 健 学 科	前期	18	62	62	22	22	2.8
		推薦	5	32	32	6	6	5.3
		A O	2	8	8	1	1	8.0
	環 境 ・ 情 報 科 学 科	前期	20	62	61	22	20	2.8
		推薦	5	8	8	5	5	1.6
	環 境 デ ザ イ ン 学 科	前期	25	84	82	27	27	3.0
		後期	5	48	26	5	4	5.2
		推薦	10	27	27	11	11	2.5
	森 林 科 学 科	前期	20	60	58	23	20	2.5
後期		6	64	63	9	5	7.0	
推薦		9	24	24	10	10	2.4	

入試科目別 アドバイス

一般選抜二次試験

昨年度の入試問題出題者から受験生の皆さんに向けてのコメントを、主な入試科目別を集めました。出題の形式をはじめ、受験生の皆さんに気をつけていただきたいことなどを解説していますので、参考にしてください。

*以下の文章は主として昨年度までの問題について書かれています。
今年度の予想問題ではありませんので注意してください。

英 語

文学部

公共政策学部

生命環境学部

昨今、専攻分野を問わず、Internetを含むいわゆるITの急速な発展とともに、国際社会において英語はコミュニケーションの手段としてますます重要な機能を担ってきています。したがって、どの分野に進むにしても、大学で高度な英語の運用能力を身につけることが要請されています。このような観点から、一般入試二次試験（前期日程）の英語は全学共通の問題を出しています。大学での勉学に必要な基本的な英語力をみるためです。ですから、とくべつ難解な問題は出していません。高等学校までに修得する英語の教科内容を咀嚼していれば解ける問題です。

形式としては記述式の問題が中心で、全文または部分和訳および内容把握の英文読解問題が3題程度、和文英訳の問題が1題です。

英文和訳、内容理解の問題では、英語の構造を正確につかみ、文脈にふさわしい単語の意味を的確に選択し、英文の内容を日本語らしい表現に置き換えるようにしてください。そのためには、豊富な語彙力と文法の知識も必要不可欠です。英作文で重要なことは、日本語の意味内容を、英語らしく表現することで、単なる直訳では自然な英語にはなりません。正しい綴り字で書くことが求められるのは言うまでもありません。

いずれの問題も、間に合わせの受験対策で解ける問題ではありません。常日頃から、話し言葉、書き言葉を問わず、英語に十分に触れて、英語の直観を養っておくことが肝要です。

また、日本語、英語ともに文字は丁寧かつ正確に、伝えたい内容が読み手に分かるように書いてください。

国 語

文学部

公共政策学部

国語はすべての学習・研究の基本となる科目です。大学で学ぶためには、言語表現の内容を論理の道筋に沿って理解する力と、自分の考えを表現する力を十分に身につけていることが欠かせません。国語の試験はその力の程度を把握するために行います。

「現代文」の問題では、その理解力と表現力が最も重視されます。問題文の内容について、筆者の使用している言葉の意味を正確に理解した上で、文脈がとらえられているかどうかを問う設問が多くなります。解答に際しては、問題文の言葉をそのまま使うのではなく、自分自身の言葉で的確に表現できるようにしてください。

「古文」では、文章の道筋や物語の展開などを把握するために、省略されがちな動作の主体や、「かの君」などの代名詞や「大将」などの官職で表される人物が誰であるかをつかまねばなりません。まず文の組み立ての基本である文法や語法についての知識を身につけることが大切です。また古典語は現代語とは意味の異なる場合が多いのですが、基本の意味をよく理解しておけば、場面・文脈によって訳し方がおのずから異なってくることもわかります。現代語に訳した場合、自然な表現になっているかどうかにも注意してください。和歌の約束事や文学史の知識も必要です。

「漢文」でも、疑問や反語、二重否定といった語法の特徴をよく理解した上で、全体として何を言おうとしているのかを読みとることが大切です。部分的には意味がわかっているにもかかわらず、文章全体の方向を読み違えると、結局まったく理解できていないことになってしまいます。現代語に訳してみた時、それが不自然であれば解釈が間違っているということです。問題文全体を論理の通った文章として理解することに努めてください。

最後に、解答の文字は丁寧に書いてください。それも皆さんの実力の一つです。

■日本史

文学部

【出題のねらい】

原始・古代から近・現代に至るまでの範囲から、政治・経済・文化など広い分野にわたって問題を出題しています。歴史の流れやできごとの背景を考える力を重視し、設問においても大きな流れが捉えられるように工夫をしています。歴史の根拠となる史資料に対する理解も重視しています。また、歴史学科受験生を対象とした記述式の問題では、歴史事実の的確な把握のみでなく、それぞれの事実を有機的に関連づけて、鳥瞰しつつ、それらを適切に表現するという点も評価の対象としています。

【受験生へのアドバイス】

特定の時代や分野に偏ることなく、日本史全体に目を配って勉強を進めることが大切です。そして、単なる歴史用語の丸暗記ではなく、歴史的なできごとの因果関係や背景について理解を深め、大きな流れとして歴史を捉えることを推奨いたします。また記述にあたっては正確な表記・表現ができることも重視しており、緻密で丁寧な勉強を心がけるようにしてください。

■世界史

文学部

【出題のねらい】

世界史の問題は、教科書で学習した内容・範囲を基礎に、世界各地の歴史を古代から近現代にいたるまで、できるだけかたよりにないように出題しています。難問・奇問は出題しない方針なので、教科書の内容をじっくり学習しておいてください。

【受験生へのアドバイス】

出題形式は、記述式と論述式とを併用しています。

記述式の問題については、人物・事件・制度・年代などの歴史的諸事項について、受験生がどこまで正確な基礎知識をもっているかを把握することを目的としています。したがって、人名・地名など固有名詞の漢字・カタカナ表記を正確に記述できるよう準備しておく必要があります。

論述形式では、特定の地域・時代に関する歴史的事象について、その歴史的変化・推移、原因と結果に対する受験生の正確な理解度と適切な表現力をみることを目的として出題しています。したがって歴史的イベント・事物・制度について、大局的な観点から、その歴史的意義について問うことが多いので、関係する人物・年代についても整理し、要点をおさえて筋道だった表現ができるよう学習しておいてください。

平成21年度一般選抜試験合格者成績（2）

生命環境学部

学 科	日 程	合格者数 (人)	合 計 点 (点)			
			最 高 点	最 低 点	平 均 点	配 点
生命分子化学科	前期	26	1187.8	1059.0	1101.8	1700
	後期	9	874.9	772.3	816.1	1000
農学生命科学科	前期	32	1072.3	927.9	977.0	1400
	後期	6	524.4	505.2	513.4	600
食 保 健 学 科	前期	22	789.4	702.3	728.9	1000
環 境 ・ 情 報 科 学 科	前期	22	958.1	726.3	800.8	1400
環 境 デ ザ イ ン 学 科	前期	27	620.0	543.3	573.4	800
	後期	5	620.0	600.3	612.2	800
森 林 科 学 科	前期	23	1030.4	873.7	925.9	1400
	後期	9	803.2	722.8	746.6	900

文学部はP5、公共政策学部はP15に掲載しています。

■ 生 物

生命環境学部

【出題方針】

生物に関する広い知識を身につけているかを確認するとともに、文章や図表から内容を正しく読み取り、解釈する能力も評価します。また、論述形式による解答により、限られた字数の中で考えを的確に表現する能力も重視しています。

【内容と形式】

出題範囲は生物Ⅰと生物Ⅱの全分野で、細胞、植物および動物の生理、遺伝、遺伝子、生態等が良く出題されます。生物Ⅱの進化および生態の分野に関しては、選択内容を履修していない受験生にも不利にならないように、問題文をよく読み生物Ⅰの知識を応用することで解答できるように配慮しています。解答形式についても、記号やキーワードを選択解答するもの、穴埋め問題、論述問題、計算問題、さらに図表を用いて解答する問題等、多彩な問題が出題されます。

【出題者からコメント】

基本事項を確実に身につけることが重要です。生物学用語には、現実の生物界の現象を反映した深い意味があります。単なる用語の暗記にとどまらず、教科書や副読本をじっくり勉強し、その用語の意味を生物界における現象と関連づけてしっかり理解することが大切です。先にも述べましたように、様々な形式の問題が出題されますので、どのような出題形式に対しても対応できるように、重要事項を覚えるだけでなく、図表の書き表し方や計算問題の練習を積んでおくことも大切です。また、論述形式の問題については、出題の意図を十分に考えて、ポイントを押さえた解答文を書く能力を高めておきましょう。

現在、生物学はますます大きな広がりを見せている発展的分野です。教科書や副読本を熟読するだけでなく、日常的に新聞、雑誌、テレビなどの生物学に関する情報に注意を払ったり、身の周りの生物の世界に目を向け観察したりすることを通して、生物に関する様々な知識や考え方を身につけておいてください。

■ 化 学

生命環境学部

【出題方針と内容】

物質を扱う学問である化学は、生命環境学部の専門科目を学ぶための重要な基礎となります。試験問題は高校化学の知識を試すための出題として、いずれも基本的な知識がしっかりと身につけていれば解答できるものです。そして、化学Ⅰと化学Ⅱの全範囲からできるだけ偏らないように出題します。化学Ⅱについては選択内容を履修していない場合にも不利にならないよう配慮します。

問題はできる限り純粋に化学の範囲に限定して、生物や物理を履修しなかった受験生に不利にならないように心がけています。これまで、知識の正確さを問うための選択問題や穴埋め問題、理論的な理解の深さと正確さを試す計算問題、考える力を試すための論述問題を取り混ぜています。また、グラフや実験装置の図を使った問題は知識の正確さと考える力を試すことができるため、しばしば出題されています。

【出題者からのコメント】

全範囲について基本的なことを確実に勉強しておくことが大切です。計算問題では公式にあてはめて機械的に計算して解答するのではなく、与えられた数字から何をどうやって導き出すかを、順を追ってわかりやすく記述できるよう十分練習しておきましょう。教科書に出ているグラフは必ず頭に入れ、このパラメータを動かしたらグラフはどうなるのだろう？という考えを巡らせることができるようにしましょう。そして何より、「計算力」と「グラフを読む力」をつけてください。論述問題では説明の要となる「キーワード」をまず考え、わかりやすく文章化する練習をしましょう。教科書に出ている実験装置の名称や使用法は必ず頭に入れましょう。発展内容や欄外のコラムにも目を通し、日頃から新聞の科学欄や科学雑誌、テレビの特集番組で最新の科学情報にも目を向けるように心がけてください。

■ 物 理

生命環境学部

【内容と形式】

例年出題分野は4題で、教科書的標準知識を問う問題からやや考えさせる問題が出題されますが、1ないし2題は基本的設問でこれらをしっかり答えることが肝要です。答だけを書けばよいという問題はなく途中の経過を記述する問題がほとんどです。問題によっては計算が求められる場合もあります。

【出題者からのコメント】

教科書を中心に基礎的な内容をしっかりと理解しましょう。まず、基本から標準レベルの問題を確実に答えるようになりましょう。基本的な問題ではうっかりミスや単位などの勘違いが最も怖いものですので、設問は数回読んで何を問うているのかを理解しましょう。

解答には図や考え方を記述させるようになっています。そこに書かれた記述は丁寧に見ます。解答欄にわかりやすく記述し、丁寧に図を描いて、部分点を稼ぐようにしたいものです。常に練習問題を多く解き、その際に設題に対して考え方を、図などを用いて簡潔にまとめて答える練習をしましょう。

【出題方針】

基本的な知識を問う問題と若干の応用問題を適度にバランスして出題します。応用問題は基本的な知識・考え方をしっかりと理解していないと正解が得られませんが、難問ではなく標準的な考え方の応用です。

■ 数 学

生命環境学部

【内容と形式】

教科書の内容が十分理解できているかを試す問題を全範囲から出題します。大問3～4題程度を出題します。解答の過程も採点対象とできるようにするため、すべて記述式の問題とします。

【出題者からのコメント】

計算量の多い問題や基本的な事項を組み合わせた問題などを通じて、基本的な内容に対する確実な理解がなされているかを試しています。また、場合分けが必要となる問題などを通じて、論理的思考力を試しています。

完全には解答できていない場合でも、答案の記述内容に応じて部分点をつけています。意味不明の記述に対しては部分点をつけられませんので、記述式の問題の答案を丁寧に書く練習をしておくことが望まれます。答案の添削指導を受けておくことをお勧めします。

複数の小問からなる大問では、各小問を解くことを通じて、引き続き小問が解答しやすいように誘導している場合があります。

【出題方針】

問題のレベルは教科書の章末問題程度か、それよりやや高めに設定しています。環境・情報科学科では、出題範囲の内、数学Ⅲ、数学Cに該当する問題を適度に多めに出题する場合があります。

平成21年度一般選抜試験合格者成績（3）

公共政策学部

学 科	日 程	合格者数 (人)	合 計 点 (点)			
			最 高 点	最 低 点	平 均 点	配 点
公 共 政 策 学 科	前 期	36	781.1	672.0	710.5	1000
	後 期	18	835.5	713.5	769.2	1000
福 祉 社 会 学 科	前 期	35	749.5	657.6	694.2	1000
	後 期	10	850.6	741.7	782.5	1000

文学部はP5、生命環境学部はP13に掲載しています。



日英翻訳文化の研究室

文学部 欧米言語文化学科
ラリー ウォーカー 准教授

国際交流がより広範になるに従い、優れた翻訳、通訳の必要性が高まってきました。そうしたことから翻訳の定義、つまり「翻訳とは」という研究が近年注目を集めています。現代の翻訳学には翻訳研究や通訳研究などの分野がありますが、私は翻訳研究、特に日本文学の英語への翻訳の歴史を探究しています。この分野にも150年程度の歴史があります。

翻訳という過程は単純に見ると言葉の置き換えです。しかし単語レベルでさえも翻訳不可能な例は容易に見ることができます。例えば、一方の文化（国、地域）には存在するが他方では存在しない植物の名前の訳し方などはとても困難です。文化レベルにおける理解は一層困難ですが、しかしながら人というものはたとえ不完全でも理解しようとする意志を持つものです。従って翻訳という過程は単語や表現が一番正確であることより、一番不正確でないものを選択する機会が多いといえるでしょう。また、文化レベルで考察する現代の翻訳理論は、今日の翻訳本は原本が著された当時の文化をそのまま正確に映してはいませんが、その「翻訳の許容性を探究する」という概念に基づいています。

日英翻訳文化ゼミでは主に三つの翻訳研究（日英翻訳訓練、欧米日本翻訳文化および日英翻訳の歴史）を行います。第一に実践的な日英翻訳の技術向上のため、現代英語の特徴、また（日本語の）古語、文語が現代英語でどのように表されているかを研究します。実用翻訳の技術により構造的、創造的技術、特に英作文力の向上を目指します。第二に文化的相違とその相互理解の方法、文化間の相互理解の重要性を探ります。例えば、ある植民地では（支配した側とされた側）双方の文化において翻訳が異なります。また、なぜ翻訳、新訳が行われるのかを理解することによって日本と西洋の文化の相互理解がより深まります。第三に歴史調査によって書誌学研究に人的次元が加わります。これによってより周到的な日英翻訳歴史の史料が得られ、それはまた翻訳行為の進化を理解する手だてにもなるでしょう。

日英翻訳文化の調査が少しでも国際理解に貢献できるよう、一緒に探究に乗り出しましょう。



社会福祉学（精神保健ソーシャルワーク）研究室

公共政策学部 福祉社会学科
山野 尚美 准教授

私の研究室では、主に精神疾患をもつ人とその家族を対象としたソーシャルワーク実践のあり方に関する研究と教育に取り組んでいます。ソーシャルワーク(social work)とは、社会福祉領域における専門的援助技術であり、「人間の行動と社会のシステムに関する理論を利用して、人びとがその環境と相互に影響し合う接点に介入する」ものです。ミクロレベルの実践では、カウンセリングと共通する部分もありますが、個人と環境（社会）の相互作用に注目し、個人のみならず環境（社会）の側にも変化を促す働きかけを積極的に行う点や、メゾ、マクロレベルでの実践も視野に入れている点を特徴として挙げるすることができます。

社会福祉というと、一般的には「高齢者・児童・（精神以外の）障害者」というイメージが持たれがちで、問題解決の方法に関しても既存の法制度の活用のみが目が向けられがちです。しかし、ソーシャルワークを学び専門職を目指す学生には、法制度やソーシャルワークの知識と技術に加えて、自らその窮状を訴え、助けを求める声を上げにくい少数の方々の存在にいつも注意を払い、できるだけ価値判断を避けてその声を聞き、その時点で始められることに取り組もうとする基本的な姿勢を身につけてほしいと考えています。

そのために、ゼミの学生には、物質使用障害（アルコール依存、覚せい剤依存等）、ギャンブル依存、性同一性障害、摂食障害等をはじめとする、社会の中で目立ちにくく、対応が遅れがちな疾患に積極的に焦点を当てて紹介しています。また、これらの病と共に生きる人々との直接なかかわりや、支援活動の実際を学ぶ機会を提供して、「クライアントの視点から」問題状況の考察を試み、その解決に向けて求められる支援について検討し、実践する力の涵養を目指しています。



健康科学研究室

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻
(生命環境学部食保健学科) 東 あかね 教授

2007年の平均寿命が世界で1番長いのは日本の83歳で、前年までに続いて首位の座を維持しています(「世界保健統計」、世界保健機関 / WHO)。日本の女性の平均寿命が86歳で世界一、男性は3位の79歳でした。女性は20年以上も世界一の座を維持しています。

日本がこれだけの長寿を保てる理由としては、国民皆保険により行き届いた医療が受けられることや、米・魚を中心とした脂質の少ない食生活が挙げられます。

健康科学教室では人間の食生活、運動習慣等の生活習慣及び健康との関連を明らかにし、健康増進と疾病予防から健康で幸せな地域社会づくりをめざしています。

その一つの例として、2001年から男性の軽症高血圧の方を対象とする“健康科学セミナー”を実施しています。正しい食生活と運動を実践し、遺伝子診断に基づき体質に合った健康づくり・血圧低下を目指す健康教室で、これまで80名の方が修了されました。この教室の目玉は、男性にもきちんとした食生活を送ってもらえるように調理実習を行っていることです。エプロンを着けることや包丁を持つことが初めてという方もおられましたが、回を重ねていくごとにおいしくバランスの良い食事が作れるようになりました。終了時には、5ヶ月でウエストが9cm減少した・家庭での平均血圧が低下した・禁煙が続いているなど目標を達成することができた方がいらっしゃいました。

当研究室の研究は、①肥満、高血圧、糖尿病、骨粗鬆症等の生活習慣病の予防を目的とした公衆栄養学的研究、②身体活動と生活習慣病・老化の防止に関する運動生理学的研究、③疾病の治療と管理を目的とした臨床栄養学的研究の3分野にわたります。

平均寿命だけでなく、健康で自立した生活が送れる「健康寿命」を少しでも延長できることを目指して、実践的な教育と研究を病院・保健所・行政で活躍する栄養士と連携しながら行っております。



男性の軽症高血圧の方を対象とする“健康科学セミナー”

機能分子合成化学研究室

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻
(生命環境学部生命分子化学科) 樫 一典 教授

私たちの研究室は2008年4月の生命環境科学研究科の発足と同時に新しく設立されました。二人のスタッフと五名の学生、研究生からなる有機合成化学の研究室です。二名のスタッフは樫が工学部出身で製薬企業で創薬研究に従事した後、大学に職を得たという経歴を持ち、倉持は薬学部-農学部-理工学部に在籍し幅広く活動してきたという経歴を持ちます。二人の経歴は異なりますが、合成化学を共通の専門領域としています。

合成化学の最大の特徴は、市販の物質や既知化合物から出発して数々の反応を組み合わせ、世界中の誰も作ったことが無い新規化合物を作ることができる点にあります。とは言っても、合成の実験は試行錯誤の連続です。狙った通りに反応が進行することはむしろ少ないのですが、明るく、楽しく、くじけず、へこたれず、研究を進めています。論より証拠、混ぜてナンボの精神に加え、正しい知識・正確な技術・充実した設備環境を整え、少しでも研究が効率的に進捗するように日夜、努力しています。研究室の合言葉は「倒れるときは前のめり」です。

研究室発足から一年余りが過ぎ、これまでの研究の延長ではなく京都府立大学に移ってから取り組んだテーマが少しずつ立ち上がり、研究成果が出始めています。具体的には①機能性オルガノゲルの創出、②ビタミンK誘導体の合成研究、③選択的蛍光センサー分子の開発、④生物活性を有するキノン類の合成研究などが発芽し、すくすく育っています。さらに我々の研究室だけではなく、京都府立大学の合成系の教員が連携したプロジェクト「固体有機化学を基盤とした新規反応、新規物質の開発」も立ち上がり、力を併せて「府大オリジナルのケミストリー」を開拓しようとしております。これらの研究の出口は、新規機能性分子を設計・合成し、分子認識化学・構造有機化学・ケミカルバイオロジーの分野に貢献することです。研究成果は高機能性材料、医薬品や診断薬の開発など生命環境分野に積極的に応用することを目指しています。





在学生の声

文学部

歴史学科 2回生 O・S

京都府立大学の特長は、小規模である事だと思います。

これは欠点のように感じられますが、学生数が少ない分、先生方との距離の近い講義が受けられます。一般教養科目の講義では、大きな講義室を使った講義になることが多いですが、専門教育科目の講義では、基本的に同回生の同学部・同学科の学生が中心となるので、高校の1クラス分の人数という事もよくあります。

専門教育科目は、歴史学科で言えば、日本史、東洋史、西洋史、文化遺産学の各分野に分かれるのですが、分野毎に受講生の偏りがあり、人数の少ない講義などは先生方の研究室で講義を受けたりすることもあります。

小規模で比較的少人数であるからこそ、より濃密な講義を受けられたりするのが、府大の良いところではないかと思います。大学時代にその本分を全うし、学業を修め、本当の意味で大学生として生活したと実感したい方に、僕は京都府立大学を強く推したいと思います。

人間環境学部 環境デザイン学科

住環境学専攻 3回生 S・T

環境デザイン学科（環デ）には2つの大きな魅力があります。1つ目は学びやすい環境。人数が少ないため、先生方が学生、一人一人を覚えてくださっているので近い距離で授業を受けることが出来ます。また、課外授業も時折あり、机に向かうだけではなく、楽しい授業を受けることができます。その他に、環デには製図室があり、一人一人に製図台が与えられ、課題の製作をすることが出来ます。皆が同じ場に集まり作業をするため、お互い、刺激になります。2つ目は仲の良さ。「環デは本当に仲いいよね。」なんて他学部の友達に言われます。製図室で作業し、皆で長い時間を共にするので、とても仲良くなれます。

「大学の授業って難しい言葉を並べてられるだけ」「大学って友達作りが難しい」大学という場に対して、こんなイメージを抱いている人が多かったのではないですか？

府大には小さいからこそその魅力がたくさんあります。

公共政策学部

公共政策学科 2回生 H・K

府大は緑が多いと言われますが、私はもっと緑の多い田舎で育って来ました。田舎という小さい世界で過ごしてきたため、大学では出来るだけ多くの人・ものに出会いたいと思っています。公共政策学科では法学・経済学・政治学、福祉社会学科では、福祉学・社会学・教育学・心理学と幅広い分野を勉強することができます。しかし、私が経済学も勉強したいと思うようになったのは、大学の講義を受けてからです。入学当初は「公共政策って何？」と漠然としていましたが、2回生になり少しずつそれがわかってきたような気がします。

また、サークルやアルバイトを通して他大学の学生とも交流が出来るのも大学が多い京都の魅力だと思います。似たようなことに関心を持つ大学の友人たちもいいですが、まったく違うことを勉強している他大学の友人の話も聞いているのも視野が広がっていくようで楽しいです。

私もまだ大学生活の途中です。しかし、大学時代は無限に続くのではないのだということを強く感じています。

農学部

生物生産科学科 3回生 A・M

ちいさい大学なんすよ、京都府立大学ってとこは。でも小さい大学でよかったなって思います。特に教授が身近に感じられるところがいいですね。積極的に部屋を訪れることで様々なことが見えてきますし、もしかしたら畑を貸してくれたり果樹園のモモをくれたり、なんてことも。まあ意味の分からない辛い雑草を食べさせる先生もいたような気がします…。T先生とか。とにかく、先生とコミュニケーションがとれる、それがこの大学の一番の特徴です。

勉強も大事ですが、個人的にはクラブ・サークル活動とも両立させてほしいですね。勉強だけでは分からないことがたくさんありますから。クラブ・サークルも規模が小さいので、仲間との絆もいっそう深まります。きっと自分に合う活動があると思うので、「大学生にもなって…」なんか思わずに、是非何かに取り組んでください。

大学は一年中誰でも入れます。一度遊びにきてはどうですか？

クラブ・サークル紹介

●合気道部

こんにちは！合気道部です。私たちは火・木・金の週三日、大学構内の武道場で稽古しています。その他に、同志社大学や京都工芸繊維大学などの他大学の合気道部と合同で稽古をしたり、大阪・吹田にある本道場へ行って、稽古をつけていただいたりもします。

皆さんの中には、“合気道を大学から始めるのは難しい”というイメージを持っている方もいるかもしれませんが、部員の殆どが大学から合気道をはじめ、二回生の冬には初段の取得も出来るようになります。部内の雰囲気は明るく、学年を問わず仲が良いので、いつも笑いの絶えない部活です。

一方で、普段の稽古ではどの部員も集中して合気道に励んでいます。厳しい稽古の積み重ねがあって合気道が上手くなるわけですから、辛いこともたくさんありますし、クラブの運営でも壁にぶつかるようなことがあります。しかし綺麗に相手に技がかけられたときといたら、そんな辛さを上回るほど嬉しいものですし、壁にぶつかることで自分を成長させることが出来、辛いことを仲間と乗り越えることで、お互いの信頼も厚くなります。

また、体育会所属のクラブであり、行事も多いので、スケジュールがクラブに左右されることも多いのですが、多くの部員が忙しい時間の中でアルバイトや学問、その他の事をクラブ活動と両立させ、充実した濃密な大学生活を送っています。

大学生活では高校生活よりも他者に束縛されない時間をたくさん持つことが出来ます。その時間をどのように使うかは自由ですが、一生懸命になれることをすることで自分を成長させることが出来ると思います。それがアルバイトでも、学問でも、クラブ活動でも何でも良いでしょう。自分の限界を決めずに一生懸命できることを精一杯することで皆さんの大学生活はきっと充実し満ちた四年間になると思います。

そのような濃密な大学生活を送るのには合気道部は最適のクラブです。合気道に興味のない方もいちど遊びに来てください。部員一同笑顔でお迎えします。

(文：U・A 合気道部 外務内務補佐 文学部文学科国文学・中国文学専攻 3 回生)



●京都府立大学合唱団

こんにちは！私は今、京都府立大学合唱団に所属しています。みなさんは、合唱と聞くとどのようなイメージをもっていますか？中学や高校で合唱コンクールを経験した人もいるでしょう。出席率が悪い、男子がなかなか歌ってくれない、先生と意見が合わないなど様々な葛藤がつきものですよ。

私たちの合唱団は、50年以上の歴史があり、また文化会では府大最大規模、70人程の個性豊かな面々で活動しています。これほどの大所帯だと、様々な問題も起き、70人の意見をまとめるのも一苦労です。しかし、それを乗り越えて得られる感動は、なにものにも代えがたいものがあります。団員一人一人がお互いを認め合い、全員が目標に向かって一つになる。私はこの感動が忘れられず、3年目の今、新たに新入生を迎え、また走り始めました。

年に2回、夏と冬に演奏会を開き、歌う曲は合唱曲のみならず、みなさんがよく知っているJ-POPや民族曲など様々な音楽に触れることができます。また、運営・指揮は学生が主体で、練習時間・場所、演奏会や各イベントなど全て一から決めていき、団員全体で合唱団を作っていくことを目指しています。音楽関係以外のイベントもたくさん企画し、年に2回の合宿では団員の新たな一面を発見することもできます。



京都府立大学合唱団では、「合唱なんて大学で初めて」という人がほとんどです。確かに、私たちは何でもよかったのかもしれませんが、ただ、この4年間で、新たに発見する自分と、かけがえのない仲間たちで何かを達成したい。その思いのもと、この合唱団に集まりました。みなさんも是非、わたしたちとともに唱(うた)を合わせてみませんか？

(文：K・A 京都府立大学合唱団 幹事長 文学部文学科国文学・中国文学専攻 3 回生)

本学の就職活動支援

学務課学生担当

景気後退で就職状況に変化

ここ数年、景気拡大と団塊の世代の大量退職を背景に企業の採用意欲は旺盛でしたが、昨年秋からの世界的な金融危機と景気後退の中、大きく様変わりしています。2010年春の採用計画調査（日経新聞社調査）では大学卒採用は7年ぶりに減少、対前年比▲12%となりました。不況の中にあっても企業は優秀な人材を求めることは変わらないものの、厳選化の傾向が強まるものと思われます。

自らの夢を活かせる職業に就くためには、先輩の就職活動アンケートに多く寄せられているように、「自分がやりたいことはなにか」ということを明確にして、積極的に行動すること。どうしてもその職に就きたいという熱意が求められています。

就職活動をサポート

就職活動においては、エントリーシートの書き方、面接の受け方などの基礎的なスキルを身につけるとともに、インターネット、企業情報誌、会社訪問等により様々な情報を得ていくことも必要です。

学生部では、学生の皆さんが就職活動を円滑に進められるよう、以下の就職支援活動を行っています。

各種セミナー

- 就職講座（右の表は昨年開催内容）
- 公務員・教員採用試験説明会
- 学内企業研究セミナー

トレーニング

- 面接対策講座
- グループディスカッション対策講座

きめ細かな対応

- 就職相談・エントリーシート相談
- 就職情報室等での就職情報提供
- 大学推薦状の発行
- 就職担当教員を通じての情報提供
- OB・OG訪問のための相談

就職活動のバイブル

就職活動の方法、データ、先輩の体験などをまとめた「就職活動の手引」、「就職活動アンケート集」を毎年作成し、配付しています。

平成20年度に行った就職講座

月 日	内 容
①8/5	オリエンテーション 講演「自分エンジンを探せ！～今から始める就職活動」 講師：キャリアコンサルタント 本田 勝裕 氏
②10/2	講演 「インターネット活用法」 講師：(株)毎日コミュニケーションズ 高橋 誠人 氏
③10/9	講演 「業界研究・企業研究の進め方」 講師：(株)リクルート 小林 沙緒里 氏
④10/16	就職模擬試験・就職常識試験 (株)学研メディコン
⑤10/23	講演 「エントリーシート対策」 講師：(株)ディスコ 山砥 敏宏 氏
⑥10/30	「就職対策マナースキルアップ講座①」 講師：学校法人 大和学園 山本 清美 氏
⑦11/6	「就職対策マナースキルアップ講座②」 講師：学校法人 大和学園 山本 清美 氏
⑧11/13	講演 「面接について」 講師：人事コンサルタント 石田 秀明 氏
⑨11/20	就職活動体験報告会 報告者：各学科（専攻）

企業研究セミナー	11/27・28	企業研究セミナー in 京都府立大学（業界を代表する24社参加）
----------	----------	----------------------------------

GC講座 面接講座	10/28・11/18 12/4・12/11	グループディスカッション 講座・模擬面接講座 講師：エン・ジャパン(株)
--------------	---------------------------	--

主な就職先（平成21年3月卒業生）

福寿園、タキイ種苗、永大産業、積水ハウス、大和ハウス、サントリー、カゴメ、メルシャン、日本食研、トーヨー、資生堂、大塚製薬、田辺三菱製薬、松風、大日本スクリーン製造、メディコン、村田製作所、TOWA、シャープ、内外電機、ヤマハ発動機、読売新聞社、日本放送協会、エイチ・アイ・エス、平和堂、日本トイザらス、日本旅行、西日本旅客鉄道、郵便事業、読売旅行、京都銀行、名古屋銀行、滋賀銀行、日本生命保険、京都市役所、大阪市役所、神戸市役所、滋賀県庁、社会福祉法人、裁判所事務官



卒業生の声

「学生時代の思い出」

文学部文学科国文学・中国文学専攻 平成17年3月卒業 T・Y
(京都信用金庫本店営業部勤務)

私が府大を卒業してから丸四年が経ちました。文学部を卒業しましたが今では全く文学と関係のない信用金庫に勤め、日々営業活動に邁進しています。

学生の頃の思い出となるとやはりクラブ活動が一番かと思います。中学生からやってきたバスケットボールですが、特に大学時代のバスケには人生を生きていく上での色々なことを学ばしてもらいました。私の入学当初のバスケ部はほとんどが初心者であった為、その先輩達に対して自分勝手に怒ったりして大変迷惑をかけたことや、自分がキャプテンになってから、強くなりたいと思うあまり周りとの意見や価値観の食い違いに気づかずに大勢の部員を退部に追いやってしまったこと…「バスケ部のキャプテンは怖すぎて、みんなやめたので一人で体育館で練習している」などの噂まで出るほどでした。自分の信念を貫く事と同時に周りの意見との調和を図ることの大切さを学んだ気がします。そのバランス感覚は今、自分の最大の武器になっている気もします。4年生になる頃には、自分自身の苦悩や努力が実ったのか、私以外は1,2年生というメンバー構成でしたが、後輩達にも恵まれ念願だった一つ上の部への昇格にあと一歩まで迫ることができました。しかし、最後の試合に負け、結局昇格はかないませんでした。やりきれない思いからどうしてもバスケをやめることができなくて、実は今でも府大の女子バスケ部のコーチをさせてもらって、毎週体育館に通っています。卒業して、4年も毎週通い続けられるのは、バスケだけでなく府大自体が好きだからでしょうね。素敵な学校です。是非府大で素敵な学校生活を送ってください。

「学生生活を通じて」

福祉社会学部福祉社会学科 平成20年3月卒業 I・K
(京都市職員)

京都府立大学での学生生活は、私にとって、多くのことを学び、経験し、自分の将来について真剣に考えることのできた大切な時間となりました。

学問の面では、福祉分野だけでなく、心理学や法学といった幅広い分野の教養を身につけることができ、社会福祉士の資格を取得するという明確な目標のもと、勉学に励みました。また、勉強だけでなく、部活の夏の合宿で絆を深めたり、アルバイトで深夜遅くまで働いたり、友達と旅行に行き朝まで飲み明かしたりと、学生にしか味わえない貴重な4年間となりました。

私は今、京都市職員として働いています。大学時代に学んだことが、自分の仕事に直接活かされることは少ないかもしれませんが、学生生活の経験が自分の将来を決める上で大変役立ちました。就職活動や公務員試験の勉強を通じて、「働く」ということが徐々に現実味を帯びていき、「働く」ことを不安に感じ、試験勉強がなくなることもありましたが、大学で共に勉強した友達や、身近な存在の先生方に支えられながら、将来について真剣に悩み、自分で決めた道だからこそ、自分の仕事に対してやる気と責任感を持って取り組んでいきたいと思っています。

多くのことを経験できる学生生活は、その色々な経験を活かして将来のことを考えることができる、大変貴重な時間だと思います。私にとってのアットホームな京都府立大学での学生生活は、居心地が良く、自分らしく過ごしながら多くのことを学ぶことのできる場所でした。

ニューフェース

平成21年4月着任の教員の紹介

生命環境科学研究科 環境科学専攻 講師 福井 亘 (ふくい わたる)

<主な研究領域> 景観生態学、GIS、緑地計画工学

都市や近郊農村をフィールドに、自然環境や人文環境について、調査研究をしています。生き物と土地利用や地形との関係、景観や文化財など歴史的に培われた地域の環境について、GISをツールにしながら、調査しています。特に、変化しやすい都市部の環境や里地里山のような二次的自然、文化的景観への維持や保全に繋がられる研究をしたいと考えています。また、持続可能な人と生物の共生した都市や農村での景観保全、整備等を提案、デザインをしたいと考えています。



「自分の基礎を確立すること」

人間環境科学研究科 生活環境科学専攻
平成 18 年 3 月 博士前期課程修了 T・M
(富田林市役所勤務)

私は、学部 4 年間と大学院の 2 年間、計 6 年間で府立大で過ごしました。前半の 3 年間では住環境学の基本を学び、後半の 3 年間では、昔から興味があった歴史的建築の分野で学びました。その間に、歴史的建築物に関わる人たちを見て、自分もどこかで関わっていたいと思い、古いまち並みが残る地域の市役所に、建築職員として就職しました。

現在の仕事は、市有建築物の営繕業務です。市庁舎や保育園、老人福祉施設等の営繕工事において、設計・積算・工事監理を行います。また、ただ工事を完成させるだけではなく、よりよい施設の在り方を考えて営繕を行うのも私たちの仕事です。財政的な問題を抱える自治体が多い現在、営繕工事をより効果的に行うには何を選択すべきかということが、常に問いかけています。そのため建築の知識に限らず、広い視野と問題意識が必要です。今はまだ経験も浅く、知識も充分ではありませんが、勉強を重ねて、よりよいまちづくりに貢献できるよう頑張っています。

社会人になって思うことは、学生は特別な身分ということです。社会に惑わされることなく、自分の好きなことを貫くことができます。社会人になったからといって自分を曲げる必要はありませんが、学生だからこそ主張できること、貫けることがあるのも事実です。だから、学生の間は、自分の思うところをとことん追究すべきだと思います。それが自信にもつながるし、社会人としての自分の根っこになるからです。

私にとっては、3 年間の研究がそうでした。民家普請をテーマに選び、大量の史料を前にして、四苦八苦しながら取り組みました。しかし今思うと、とても楽しい日々でもありました。そして、あの時の課題に対する取り組み方は、今でも自分の基本的な姿勢になっていると思います。

残念ながら、今の部署では、地域にある歴史的建築物に直接関わる仕事はありません。いつか携わることができた時には、自分で納得できる仕事をしたい、できるように成長していきたい、というのが、今の私の目標です。

人生とは研究そのもの

農学研究科 生物生産環境学専攻
平成 16 年 9 月博士後期課程修了 F・A
(独立行政法人農業生物資源研究所勤務)

京都府立大学に入学した時は、まさか 11 年もの間、本学のお世話になることになるなど思いもありませんでした。博士号の学位取得まで 9 年半、そして、共同研究員として 1 年半。振り返れば、研究室（植物病理学講座）に配属になるまではクラブ活動漬け（オーケストラ）、配属後は実験漬けの日々で大変充実した学生生活・研究生生活を送ることができました。それもこれも京都府立大学がとても居心地の良い大学であったからに他なりません。京都北山という恵まれた環境にたまたみ、こぢんまりとしているが故に先生方の懇切丁寧な指導を受けることができ、また、学生同士の交流をとりやすいというのは府大の最大の特色だと思います。

現在は、独立行政法人農業生物資源研究所にて研究活動を行っています。引き続いて学生の頃よりのテーマに取り組めるという幸運に恵まれ、相変わらず研究漬けの毎日を楽しんでいます。その成果もあり、これまでの業績が評価され、本年度、学会より学術奨励賞という栄えある賞を受賞することができました。

つくば市に移って早 3 年近くになりますが、最近、人生とは研究そのものだと思うようになりました。「研究者には、①情報収集能力、②計画立案能力、③実験遂行能力、④考察力・問題発見能力、⑤プレゼンテーション能力の 5 つが必要とされる」というのは恩師の受け売りですが、以前までは、確かにその通りではあるけれども・・・とっていました。しかし、実はどれも特別なものではなく、人が生きるために必要とされる能力そのものではないかと。要は、日頃から如何に物事に対して問題意識をもてるか、考えられるかが重要なのではないかと。恥ずかしながら、これまではただひたすら我武者羅に突っ走ってきたような気がします。これからは学生時代に培った気力・体力・根性に加えて、質的向上をはかり、さらに走り続けられればと思います。

新 入 生 歓 迎 夜 祭 開 催

京都府立大学では毎年4月に新入生歓迎夜祭というお祭りを開催しています。

このお祭りは新入生に心からの歓迎の意と大学の雰囲気を与え、また上回生との交流を持ってもらい、より早く大学生活に馴染んでもらう上で毎年欠かせない行事となっています。

お祭りでは構内に部やサークルによる模擬店が並び、たこ焼きやラーメン、変わったところではフレンチトースト、てんぷらなど様々な食べ物が売られています。また施設内では美術部や写真部の展示会やギターマンドリンクラブやJAZZ研究会などの音楽系の部や下鴨劇場、能楽部の公演も行われており各団体の工夫を凝らした催しがされています。

祭期間中はステージが特設され、ステージ上では様々な演目がされています。軽音楽部や邦楽部のコンサートをはじめ、合気道部の模擬演舞、フラガール、ダンスカンパニーのダンスの披露、応援団の発表など各部、サークルがその特色を活かした個性的な出し物を行っています。学内の団体だけでなく外部の方々にも出演していただいております。今年は彩京前線、arttuneに出演していただきました。ステージの観客席には毎回たくさんの観客がおり、ステージの催しはお祭りの目玉として最も盛り上がるものとなっています。

また来場してくれた方に参加してもらう企画として、大学構内に置かれたチェックポイントを回ってもらうウォークラリー企画、新入生と上回生が優勝賞品の焼肉を目指し協力してクイズやゲームに挑戦してもらう焼肉企画があり、新入生だけでなく在校生も一緒に楽しんでもらえるような試みもしています。

このように毎年様々な企画が行われ、たくさんの新入生の方が参加してくれています。

私達実行委員会も新入生歓迎夜祭をより良いものとし、来場者に楽しんでいただけるよう毎回創意工夫をし努力しております。ぜひ機会があれば秋に開催される学園祭・流木祭に来場していただけて楽しんでいただけたらと思います。

(文：I・Y 流木祭・新歓夜祭実行委員会委員長 森林科学科3回生)



在学生の活躍 ～平成20年度学長表彰者～

平成17年度から、学術、文化・芸術、スポーツの活動等で特に顕著な成果を上げるなど、他の模範と認められる学生又は学生の団体を表彰しています。

平成20年度の表彰者を紹介します。(肩書きはいずれも受彰当時)

- 福島 智子さん(文学科国文学・中国文学専攻4回生)
2回生の時から卒業年次まで、応援団長として副団長とともに、府大の課外活動を盛り上げるべく活動し、多くの勇気と感銘を与えた。また、多数のマスコミからの取材を通じて、京都府立大学学生の活躍を全国に発信した。
- 日野 怜さん(文学科国文学・中国文学専攻4回生)
2回生の時から卒業年次まで、応援団副団長として団長とともに、府大の課外活動を盛り上げるべく活動し、多くの勇気と感銘を与えた。また、多数のマスコミからの取材を通じて、京都府立大学学生の活躍を全国に発信した。
- 宮岡 良衣さん(環境デザイン学科生活デザイン専攻3回生)
平成20年度第6回京都学生祭典における「KYO-SENSE ロゴマークコンペティション」最優秀賞受賞
- 水谷 友紀さん(文学研究科史学専攻博士後期課程平成21年3月修了)
平成19年度第5回「徳川奨励賞」((財)徳川記念財団)受賞
- 任 心怡さん(文学研究科国際文化専攻修士課程2回生)
「第22回外国人による日本語弁論大会」(主催：京都市、京都西ライオンズクラブ他)優秀賞受賞

教員奮闘記

▶ 「観察眼」を養え！

生命環境学部農学生命科学科 寺林 敏 准教授

農学生命科学科では、微生物から動植物までの生物を研究対象とし、その農業的利用にとどまらず、それに関連した生命科学分野までの広範囲な教育・研究を行なっています。それゆえ、研究内容も実に様々です。しかし、「違い」を見出し、その有益なる「違い」を開発・利用することでは、それが「形態的」なものであれ「機能的」なものであれ、或いは「量的」なものであれ「質的」なものであれ、いずれの研究も同じです。統計処理による有意差検定はまさにその「違い」を証明するツールとして使われています。収量が多い、果実中の糖濃度が高い、特定の機能性成分が多い或いはその作用が強い、早く成長する、病害虫に強いなど、要するに私たちは物の大小や、長短、軽重、高低、強弱などに差があるという「違い」を問題にしています。この「違い」に気づくことは多くの研究の出発点であり、同時に目的でもあります。私は研究室の学生達とほぼ1年中、主に野菜などの植物を栽培して実験を行なっています。「漫然と眺めているだけでは決して「違い」には気づかへんで！」と常々、言っています。定規を使って長さを測るのも、分析器機で精密な分析・測定をおこなうのも、すべて研究者の判断です。研究者の目が鈍ければ、必要のない測定・分析を続けることになり、また、目の前にある有用な現象や形質をみすみす見逃してしまうこととなります。文献を集めて読むこと、専門書を読むことはそれほど難しいことではありません。しかし、ものを見る力は、努力しないとなかなか身につかないものです。学生達には、大学では知識・教養を身につけるだけでなく、するどい「観察眼」、つまり「わずかな違いを見極める力」を養ってほしいと願っています。研究の成果を上げることはいうまでもありませんが、私自身と学生達の「観察眼」を磨くための毎日の植物との接触が、私の「教員奮闘記」そのものです。



トピックス

☆文学部歴史学科の上杉和央講師が2008年度日本地理学会賞（奨励賞）を受賞

（社）日本地理学会の学術誌『地理学評論』80-13(2007)掲載の「18世紀における地図収集のネットワーク—大坂天満宮祝部渡辺吉賢を中心に—」が評価されたものです。

☆生命環境科学研究科環境科学専攻の尾崎明仁教授が2009年日本建築学会賞（論文）を受賞

表彰業績「熱・水分・空気連成を考慮した建築の熱環境予測に関する一連の研究」について、建築熱環境学の向上に多大な貢献をしたものと高く評価されたものです。

☆生命環境科学研究科応用生命科学専攻の塚本康浩教授が産学官連携功労者表彰文部科学大臣賞を受賞

ダチョウによる新たな抗体大量作製技術を用いた鳥インフルエンザ防御用素材の開発で、ベンチャー企業同士の連携により、大学発の技術を実用化した優れた事例として評価されたものです。

イベント情報

京都府立大学 桜楓講座（秋の部） どなたでも参加できる公開講座です

Cコース 10/17（土）10：00～12：00

「化学から見た土の働き」 生命環境科学研究科教授 山田 秀和

Dコース 10/31（土）10：00～12：00

「『古い』のフロンティア—アメリカにおける『古い』の新しい考え方」 文学部教授 金澤 哲

場所 両コースとも本学 ※詳しくは大学までお問い合わせください。

府大広報 No.161 一入試特集号一 京都府立大学広報委員会 2009.7.25 発行

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5 TEL. 075-703-5147 FAX. 075-703-5149

Email kikaku@kpu.ac.jp